

## わらうことっていいね

こばやし  
らんまる  
小林 蘭丸

ほとくのババは、へんなおじさん。ほとくの友だちからも言われている。

ババは、いつもぼくや友だちをわらわせようとつぜんアントニオの木の名ねをしたり、わざとほとくの名前をまちがえて大きな声でよんできたりと、友だちのババがしないことをババはする。だからいつもはずかしくて「学校にこないで。」と、ほとくは、ババに言ってしまう。でも本とうは、学校にきてほしい。ほとくのことを見てほしい。ババが本とうは、「みんなが楽しくなるように。」と思っておも白いことをしたり言ったりしているのを、ほとくは知っているよ。ババがやさしいってことも。でもババにははずかしくて話せない。

ババがけいちゃん家のかいだんからおちて、頭からちをながして、きゆうきゆう車ではこばれた時は「ババがしんじやう。」と思って、とてもかなしかった。ママがびょういんから帰ってくるまで心ばいでねむれず、ずっと心ぞうがドクドクいつていた。びょういんでババの顔を見られるまでは、ババにほんとうに会えるのか、すごくふあんだった。ババに会えた時は、すごくうれしかった。「生きていてくれてありがとう。」っ

てほんとうは言いたかったけど、はずかしくて言えなかった。モヤモヤな気もちでなきそうだったけど、ないたらババがかなしくなると思って、がまんした。ババが帰ってくるまでは、ママをたすけ、れんをまもうろうと思った。ババがいなくてさびしかったけど「さびしい。」と言ったらママがつらくなると思ってがまんした。だっていつも「ママをたすける。」って、ババと男どうしのやくそくをしているから。でも、ババがいないう家はわらいがなくてつまらない。ババがいるだけでたく山わらえる。ほとくだけじゃ、ママをわらわせられない。ババって、すごく大きな人だと思った。

ババがわらっているだけで、ほとくもママもれんも、家ぞくみんながえ顔になる。やっぱりババには、いつもえ顔でいてほしい。いつもわらっていてほしい。

ババはちよつとおじいちゃんだから、ほとくが、ババやママやれんをまもれるくらいつよくなるまでは、がんばって長生きしてほしい。だから、ババのすきなおさきは、ちよつとへらしてね。また、長しゅう力のまねをして、大わらいしようね。ほとくは、ババのわらっている顔が大好きだよ。